

# し す 老 施 協

No. 16

平成18年6月発行  
静岡県老人福祉施設協議会  
〒420-0856静岡市葵区駿府町1-70  
静岡県総合社会福祉会館内  
TEL 054-653-2311 FAX 054-653-2312  
E-mail : sizurosi@vesta.ocn.ne.jp

## 卷頭言

## 会長再任にあたって

静岡県老人福祉施設協議会

会長 仲亀透



五期目を迎えたが、「年々歳々花相似たり、人同じからず」と申しますとおり、期ごとに新たな課題に出会い、無事乗り越えることができました。

これも各位のお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。

今期も、介護保険制度、社会福祉制度が大きな曲がり角に差しかかっている中での任期でございます。改めて責任の重大さをかみしめております。

顧みますと、平成十年に会長に就任し、最初におとづれたエポックは「措置制度」から「介護保険制度」への制度転換であります。

そして、ただいま直面している課題もやはり「介護保険法」で、本年四月の法改正により、これまでになかつた「介護予防システム」、「地域密着型サービス」が創設されました。介護の歴史の中でも画期的と言つてよいでしょう。

四季折々、彩り豊かな日本の季節の中で、もっとも活動的で胸躍る候を迎え、会員各位におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび平成十八年度役員選任の場において、各位のご支持によつて図らずも会長に再任されました。

ご利用者も事業者も、誰もが先を見通せ、「将来設計」が可能な安定したサービスの提供と事業の継続を

望んでいると思います。が、基本となる制度そのものは、「年々歳々同じからず」の感がしてなりません。

このような福祉の流れの中で、我々老施協としては、地域に貢献し、利用者に喜んでいただくサービスを提供するため、少しでも早く新制度の「定着」を図つていかなければなりません。

そしてまた、各位が蓄積したノウハウを「国政に反映」させ、制度そのものの改善を図つていく努力が、大変重要だと考えております。

全国でも比較的大きな「県勢」を持つ本県老施協の結束は、一つの鍵と申せます。

このような考え方のもとに、一致協力体制の確立、情報交換と情報の共用化、職員資質の向上等、各位の期待にそろべく、今期も「会の発展」に全力を注いでいく所存であります。

老施協の果たす役割は、ますます重大となつております。

今後とも、関係者各位のご支援をお願いし、会長再任の挨拶とさせていただきます。

(特別養護老人ホーム

「富士宮荘」施設長)



## 排泄ケアの見直しにより QOLの向上を図る

特別養護老人ホーム

「ながいづみホーム」  
介護職員 渡辺 竜

「共有」という言葉を、私は、施設でのチームケアを行うにあたって最も大切にしています。

問題意識・情報・目標・目的・取り組みなどを共有することによって、チーム力は上がり、その結果、良いケアができるようになります。

今回のポスターセッションでは、羞恥心にかかる、とてもデリケートなケアである排泄ケアを取り上げました。

平成十八年一月九日、静岡市民文化会館において、21世紀委員会と企画調査研修委員会は協力して、「語ろう拡げよう情報のネットワーク」と題する職員研修会を開催しました。

今回は、職員相互の交流と情報交換を目的に、新たなポスターセッション方式を採用したため、はじめは期待と不安が相半ばでしたが、三十一施設から五十名余が参加して、それぞれのテーマに沿つて工夫したデスプレーの前でひたむきに発表する姿や、二百三十名の一般参加者との熱心な交流と情報交換が印象的で、大変有意義でした。

今回の試みについて、発表者の感想を紹介するとともに、今後の開催に活かしたいと考えています。

そこで私は、ひとりの利用者の排泄ケアを通して、問題意識・情報・目標・目的・取り組みを共有し、統一の図られたケアを実践しました。その結果、利用者・職員が共に「喜び」を共有することができました。

今回のポスターセッションでは、他

の施設の取り組みを知ることができ、とても刺激を受けました。また、参加者の皆さんには、私の発表を真剣な表情で傾聴していただき、感謝していました。

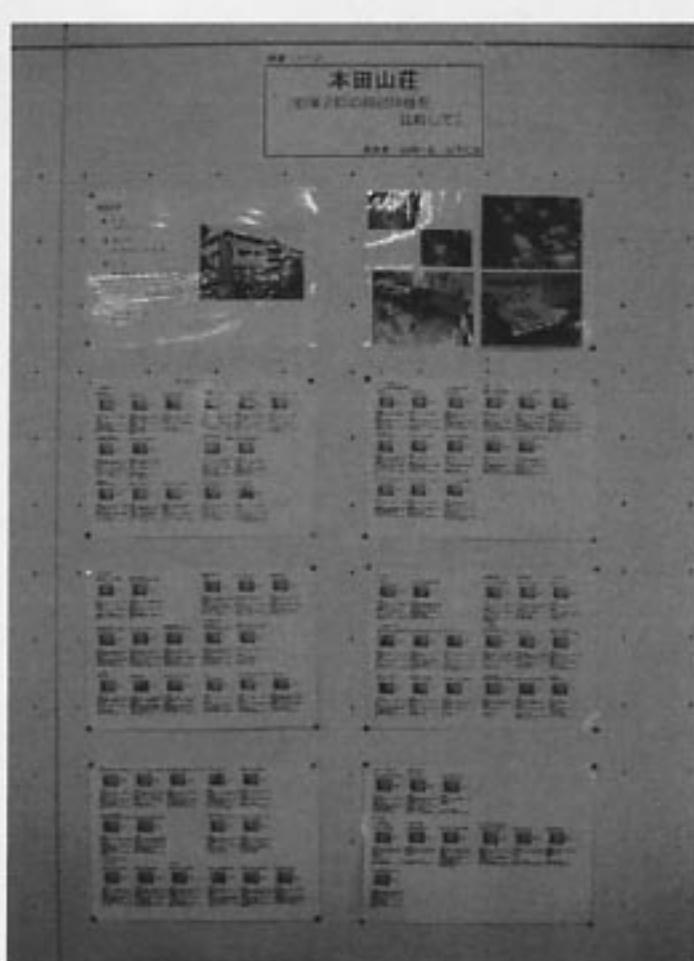
また、午前中の異業種講師講演会でも、講師の甲野善紀氏から、今まで聴いたことのないとても興味深いお話を伺うことができました。

## 前後二回の自己評価を比較して

特別養護老人ホーム「本田山荘」  
介護士 山内 一弘

今回、私がポスターセッションに参加させていただいた理由は、まず第一に、他の施設が利用者さんに対してどのようなケアをしているのか。また、それぞれの施設でどのような工夫や取り組みをしているのかを知りたかったということと、私たちの施設をより多くの人に知つてもらいたかったからです。

実際に参加してみて、排泄介助や食事ケア、口腔ケア、シヨートステイ利用者の送迎など、いろいろな施設の様々な取り組みや工夫を知ることができ、とても貴重な経験を得るとともに、私たちの施設の取り組みも多くの人に知つていただくことができたと思います。



今回、ポスターセッションに参加することで、いろいろな施設と情報交換の場となり、本当に素晴らしい時間を過ごすことができました。ふだん他の施設の取り組みを知る機会はなかなかないので、このような時間を得ることができたことは、本当によい経験になりました。

また、異業種講師講演会という機会で過ごすことができました。ふだん他の施設の取り組みを知る機会はなかなかないので、このような時間を得ることができたことは、本当によい経験になりました。

なお、当団は異業種講師講演会も同時に開催され、武術家の甲野善紀氏から、理に適った身体介護の方法を学びました。

# 語ろう抜けよう情報のネットワーク



も、自分たちの仕事を新しい視点で見詰め直す貴重な時間でした。これからも、このようないうな機会を作り、より多くの施設間でも情報交換の場を設けることが、お互いの施設の発展につながつて行くと思いますので、是非また、今回のポスターセッションのような場をたくさん作つていただきたいと思います。

## 満足いくターミナルとは

**特別養護老人ホーム「西島寮」  
介護支援専門員 田中 留美子**

今回は、特養西島寮処遇向上委員会として行つてきた事柄を、「ポスターセッション」という形でみなさんの前で発表できる機会を得たことを介護職員ともども非常に感謝し、今後の活動のモチベーションとしていきたいと考えております。

処遇向上委員会は平成十三年度に発足し、入居者の処遇はもちろん職員の自主性、意欲も向上させていこうという目的で活動している委員会で、いくつかのテーマを決め特養職員が三、五名ずつのチームでテーマを掘り下げ、個々に設定した目標達成のために取り組んでいます。「紙おむつ班」「オムツはずし班」「拘束ゼロ班」「リスクマネジメント班」「マニュアル班」など様々なチームそれぞれがリンクし協力しあうことによって、昨年より今年、

も、自分たちの仕事を新しい視点で見詰め直す貴重な時間でした。これからも、このようないうな機会を作り、より多くの施設間でも情報交換の場を設けることが、お互いの施設の発展につながつて行くと思いますので、是非また、今回のポスターセッションのような場をたくさん作つていただきたいと思います。

今年より来年と次の年にはさらに一步進んだ活動に発展してきます。「ターミナルケアマニュアル」は十八年の制度改正でターミナルケア加算が付くとのことで条件に沿うよう若干の修正をしましたが、もともとは「入居者の終末期に家族が付き添った場合や臨終を迎えたあと対応が分からぬ」といふ。「湯かんの手順が覚えられない」、「止くなつてしまつてから、ターミナル期の対応についてあれでよかつたのかと悩む」などの現場の声から、「マニュアル班」が中心になつて取り組み作成されました。そしてまた、マニュアルにそつたケアを行うことで、知らなかつたこと、分からなかつたことで起る事故やトラブルなどのリスクを回避する目的もあります。

今回のポスターセッションで何を発表するのか検討した際には、既にマニュアルとして形が出来上がつてしまつていたものでしたので、なかなか興味の持ちづらい内容だと思われましたが、それ以上に、それぞれ皆さんの施設でも役に立つていただけたため非常に見づらい出来上がりとなつてしましました。また、準備したマニュアルを含む資料が足りなくなつてしまつたため、後日送付させていただいた事業所にはご迷惑をおかけしてしまい大変恐縮な思いです。

しかし、今回の研修会には学生さんなどを含む一般の方々が大勢いらっしゃつており、また思つていてよりも多くの方が興味をもつてみてくださいたことを非常にうれしく感じております。

そして、「ポスターセッション」に参加したことによつて、通常では顔を合わせ話す機会のなかつた21世紀委員会の皆さんや他施設の職員の方などと交流の機会を持てたことを感謝し、是非、次の機会につなげていきたいと考えております。



## ケアプランに沿った ケア記録の整備

特別養護老人ホーム

「ぬまづホーム」

介護職員 市川 かおり  
介護職員 白井 知子

ポスターセッションに参加するにあたり工夫したことは、まずフォーカスチャーティングとはどんな記録方式かを理解してもらうことでした。フォーカスチャーティングの基本を理解し共有してもらえたければ、発表内容が全くわからないものになってしまった。パネルに使う資料の内容や順番など記録検討委員と何度も相談しました。一つ一つのパネル作りで意識したことは、文字の大きさや色彩、私達の記録の整備についての取り組みを分かりやすく要約し伝えたい内容を整理することでした。

また、配布資料で発表内容の補足をしました。出来れば記録の目的やフォーカスチャーティングを活用してどんなメリットがあるか等、いくつかの具体例をあげて説明したかったのですが、今回はそこまでできず残念でした。

当日の発表では、ポスターセッションというものの初めてであり緊張していましたが、発表の時、皆さんは、うなずき、聴いてくださいました。そして発表者が、同時に心の中でうなずき、ポスターの文章が自分の言葉になつたことを強く感じていました。施設の仲間が、夜勤の入り、夜勤明けなどでも会場に来てくれ、仲間はありがたいと思いました。

他施設の発表も興味深く、現在それを参考に新たな取り組みを開始してい

ないかと不安に思いました。しかし、ケアプランの記載について参考にしたいと質問に来てくれた方もいたので、抄録や配布資料と合わせて、少しでも私達の取り組みを伝えることが出来たのではないかと実感することが出来たこの発表に参加して良かったと思いました。

最後に、全体を通して感じたことは、他の施設の発表を聞くことが出来なかつたことや、質問、自由なディスカッションができる時間がなかったので、もう少し時間のゆとりが欲しかったと

この発表を機に、私達の活動の振り返りや記録に関しても再確認することがいました。

今後もスキルアップを図り、施設内での勉強会や指導に力を入れ、ケアの結果が見える記録が増えるよう取り組んでいきたいと思っています。

しかし、それとは別に、実際に私達の仕事をポスターにする作業は、簡単には進みませんでした。締切が近づいても完成のイメージが浮かばず、大変なことを引き受けてしまた……と思つていました。寝ても覚めても「ポスターセッション」が頭から離れることはありませんでした。そしてようやく研修前日にポスターが出来上がった時、私達の目指す介護のあり方に気付いたような気がしました。

発表の時、皆さんは、うなずき、聴いてくださいました。そして発表者が、同時に心の中でうなずき、ポスターの文章が自分の言葉になつたことを強く感じていました。施設の仲間が、夜勤の入り、夜勤明けなどでも会場に来てくれ、仲間はありがたいと思いました。

ただ、当日は高校生も来ておりましたが、参加者だけでいっぱいの会場に、彼女達の聴くス

ペースはない状態でした。明日を担う若い人材にも、せっかくの機会を経験出来る工夫をしたいものだと思います。

今回の研修は、私達にとつて本当に多くの時間をかけて話しあることで、改めて自分達を見直すことが出来ました。

今後もスキルアップを図り、施設内での勉強会や指導に力を入れ、ケアの結果が見える記録が増えるよう取り組んでいきたいと思つています。



## 変わらないもの

特別養護老人ホーム「麻機園」

介護職員 足立 景子

私達が最初にしたこと、それはこの数年間のアルバムから沢山の思い出を引つ張り出したことでした。さまざまなもので、私達は、どんな仕事を、どんな気持ちで、そして何を大切に考えていたのかを振り返ってみました。時間をかけて話しあことで、改めて自分達を見直すことが出来ました。

しかし、それとは別に、実際に私達の仕事をポスターにする作業は、簡単には進みませんでした。締切が近づいても完成のイメージが浮かばず、大変なことを引き受けてしまた……と思つっていました。寝ても覚めても「ポスターセッション」が頭から離れることはありませんでした。そしてようやく研修前日にポスターが出来上がった時、私達の目指す介護のあり方に気付いたような気がしました。

発表の時、皆さんは、うなずき、聴いてくださいました。そして発表者が、同時に心の中でうなずき、ポスターの文章が自分の言葉になつたことを強く感じていました。施設の仲間が、夜勤の入り、夜勤明けなどでも会場に来てくれ、仲間はありがたいと思いました。

他施設の発表も興味深く、現在それを参考に新たな取り組みを開始してい



ます。当日は個人的に話を聴く時間がなかったので、後日連絡をとつたり資料を送つてもらつたりと、他施設との交流になつたと思います。

ただ、当日は高校生も来ておりましたが、参加者だけでいっぱいの会場に、彼女達の聴くス

大きな写真を載せ、キャラクターを登場させて簡単に説明を入れてみました。細かいことは、口頭で説明すればいいだろう、と。そして、気難しそうなものは、話を聞く前から敬遠されてしまうのではないかと思われるQ.Rコードをポスターに貼り付ける等の「遊び」も加えてみました。学生が多くつたためか、予想以上に好評でした。



「今度、県老施協の企画でポスターセッションがあるから、発表者として参加するようだ」と言われ、うなづいてみたもののポスターセッションについて何？初めて聞く言葉でした。資料を渡されて読んでみる。やっぱりわからぬ。色々とインターネットで検索をしてみて、なんとなくわかったような気がして、やつと作業に取り掛かる。私の場合、施設長より「お題」を与えられていたので、ポスターの作成自体は楽だったと思います。ただ、自分で「ポスター」は見た目で理解できるもの」と思い、構図には大変悩みました。説明したいことは沢山あるが、文字にしてしまうとポスターとしては見難くなってしまう。そこで、

今回、職員相互交流発表報告研修会に参加、発表させていただきとても貴重な体験をすることが出来感謝します。

豊田一空園通所介護事業部で、特に力を入れている「回想法と脳リハ」をテーマに、実際に日常行事やふだん談話中に行っていることを、試行錯誤しながら数枚のポスターに凝縮して表現し発表するということで、改めて認知

た。委員会の皆様には、準備から念でした。

大変ありがとうございました。

「今度、県老施協の企画でポスターセッションがあるから、発表者として参加するようだ」と言われ、うなづいてみたもののポスターセッションについて何？初めて聞く言葉でした。資料を渡されて読んでみる。やはりわからぬ。色々とインターネットで検索をしてみて、なんとなくわかったような気がして、やつと作業に取り掛かる。私の場合、施設長より「お題」を与えられていたので、ポスターの作成自体は楽だったと思います。ただ、自分で「ポスター」は見た目で理解できるもの」と思い、構図には大変悩みました。説明したいことは沢山あるが、文字にしてしまうとポスターとしては見難くなってしまう。そこで、

場させて簡単に説明を入れてみました。細かいことは、口頭で説明すればいいだろう、と。そして、気難しそうなものは、話を聞く前から敬遠されてしまうのではないかと思われるQ.Rコードをポスターに貼り付ける等の「遊び」も加えてみました。学生が多くつたためか、予想以上に好評でした。いざ発表をして感じたことですが、全ての発表を見てもらおうと言う趣旨があつたのでしょうか、それ故に人が集まりすぎてポスターが見えない、質問がしにくいと言った雰囲気を感じました。また、前人の発表で時間が流れ込むといったハプニング（主催者側としては想定内かもしませんが）がありました。

私は初の試みということもあるので、今後も継続して行なつていけば職員交流の場としても大変役に立つのではないかと、期待しています。

他の施設の発表・展示においては、すぐに取り入れたいものや目指したいもの、また同じような問題に対しても向性を示してくれたものなど、とても参考になり、自分の施設の中だけの「井の中の蛙」になつてはいけないということを痛感しました。

ケアハウス「ラボーレ駿河！」  
相談員 塚本 裕一



私の考えとしては、発表時間を数回設定して気になる発表を好きな時間帯に聞いてもらえば、少人数でゆっくりと見て聞くことが出来て質問もしやすかつたのではないかと考えました。ただし、大前提として隣の発表の邪魔にならないよう、広いスペースが必要となります。





ルも向上し職員も意欲的に参加しています。その際にパワー・ポイントではなくポスター・セッション方式で行うのもいいのではと考えていますので、ぜひ提案してみたいと思っています。

委員会の皆様は準備から片付けまでお疲れ様でした。ありがとうございます。

## 個別ケアとしての 希望外出の取り組み

特別養護老人ホーム「一空園」  
施設相談員 瀬崎 信和

特別養護老人ホーム「大井川睦園」  
生活相談員 前田 嘉彦

## 学習療法について

今回このような研修会に参加させていただきありがとうございました。

「ポスター・セッション」という方法の研修は初めてだったので、大変勉強になりました。有意義な体験ができました。

まず、発表する側としては、聞き手が近くにいて話しやすいうこと、ポスターを使うために説明がしやすく伝わりやすいこと、終了後に直接質問を受けられるのでこちらの主訴が伝わりやすいことなどメリットが感じられました。聞き手側にも発表側と同じメリットがあり、様々な発表やポスターが見られるので楽しい勉強になる。

今後としては、当施設では年一回「職員研究発表」をパワーポイントを使つて行っています。年々発表のレベル

が向上していると他の発表が聞けないなどがあります。

学習療法を導入して丁度一年が経過しようとしていた矢先、「ポスター・セッション」の話がありましたので、一年を振り返る(まとめ)良い機会と位置付け、今回参加した次第です。

しかし、いざ資料作りに取り掛かってみると、思っていた程簡単ではなく、数回の会議を経て、また学習療法の指導先「くもん」にも協力を仰ぎ、ようやく出来上がった次第です。

最後に、今回の企画に参加したことにより、他の施設の取り組みを生の声で聞くことができ、情報や意見交換もできたので、今後も継続して企画していくだけたらと思っています。よろしくお願い致します。

他の施設の取り組んでいる事柄を勉強でき、問題を共有することができ、情報を交換することができる場として、これからも企画していただきたいと思います。

## 介護予防について

養護老人ホーム「奥山老人ホーム」  
生活相談員 田中 君文

まずは、ポスター・セッションという

みを振り返り、資料等を作成する過程において、成果等を確認することができます。そこで、成果等を確認することができ、また今後の課題が明らかになったことは、参加して良かったとの思いを強く感じています。

「ポスター・セッション」という新たな方式での発表報告会でしたので、興味深く期待するものがあり、当園では五名参加しました。参加者からは、次のような感想等がありました。  
 ①他の発表設は、発表の仕方・資料等に工夫がありとても参考になりました。  
 ②施設の発表が一通り済み、その後相互交流が行われた訳ですが、とても有意義と感じましたので、もう少し交流時間があつた方がよかったです。  
 ③発表時、他のプロックの発表の声が聞こえたりしたため、聞き辛い時があつた。  
 ④他のプロックの発表も聞きたかったが、同時に進行だつたため聞くことができなかつた。

また、レイアウトについてもいかにわかりやすく伝えるかという点では、配置、字の大きさ、用紙などの点で工夫をしたつもりです。

当日の発表は、あと五分ほど発表時間がほしかった気がします。質疑応答の時間も、もう少し長くしてもよかったです。それでもと思います。会場については、とても明るくて広さを感じ機能的で、とてもよかったです。

発表後には、他施設からの質問の多さに驚き、関心をもつて聞いてくれたことへの感謝と喜びを感じることができました。また、多方面の方々と情報交換できたことが何よりの収穫でした。

聞きなれない言葉に戸惑いを感じました。次にテーマを決めるにあたり、こちら側から伝えたいことと他の施設からどんなことを学びたいのかが明確にならず苦労しました。

反省として「介護予防」とい

う大きなテーマに捉われすぎたような感じがします。もっと具体的にテーマを絞つて、取り組んでいる内容を紹介した方がわかり易かつたのではと思いま

## ターミナルケアマニュアル

### への取り組み

特別養護老人ホーム「和みの郷」

介護職員 岩崎 靖子

当施設は、平成十四年四月に開設し四年目を迎え、施設で死を迎える利用者が多くなってきました。

尊厳ある死、死に直面した職員の不安な気持ち、統一したケアなどを考え、平成十六年十二月にターミナル検討委員会を発足しました。そして、一年間かけてケアマニュアル作成に取り組み、様々な試行錯誤の結果完成させた成果を、この機会に発表したいと思いました。

その結果、資料①委員会の目的、資料②メンバーの構成、資料③終末期意向書、資料④職員の意見のまとめ、資料⑤マニュアルの枠組み、資料⑥勉強会風景、資料⑦偲びのカンファレンス、そして資料⑧には、メンバーの写真を載せることに決定しました。また、活字の大きさや写真の抜粋にも気を配りました。活字は少し離れてみると小さく思いその都度調整し、写真は何度もレイアウトをし直しました。発表原稿が仕上がり、実際に声を出しての練習

になると、聞く側からは声の大きさや間の取り方などが気になり、修正が加えられ、発表前日に準備完了となりました。十分間という短い発表時間の中で、八枚のポスターとスピーチで全ての内容を伝える難しさを実感しました。

また、会場内の他の施設の掲示物を見て、スピーチを聞きたいと意欲をかき立てられました。目から入るポスターは頭に残り、さらに耳から入る言葉でより深い理解が得られました。他の施設の発表を聞き、取り組んでいる内容も様々だと分かり、また、それらがすべて日常生活の参考になることばかりで、大変貴重な経験をさせてもらいました。

今後も機会があれば参加し、日頃の成果を発表したいと考えています。



## 介護予防について

軽費老人ホーム「和松園」

介護職員 油井 雅子

今回初めての試みとなるポスターセッションに発表者として参加させていたいた中で、発表の内容をどうするか、また、十分という短い時間の中でいかに自分達の施設で行っている内容をわかりやすくまとめて発表するかという点を工夫しました。

今回は介護予防についてということを発表いたしましたが、ふだん行ってることを一つをとつてみても伝えたいことは数多くあり、その中からいかに内容をしぼつて伝えるかという点について様々な思考を重ねる結果となりました。ポスターに掲載した写真についても、何をしているところであるのかが分かりやすいもの、また、なるべく他の施設で行っていない活動のものを中心に選ぶことを心掛けました。

実際に発表をしてみて感じたことは、発表が四ブロック一斉に開始されたこともあって、それぞれの発表で聞いてみたい内容が重なってしまった場合、選択しなければならなかつたのではないかということです。その反面、それぞれの発表が終わつた後で、質問の時間を多くとることが出来たこともあり、質問する側としては一つの内容についての疑問点をより詳しく確認したり、こんなこと聞いていいのだろう



かと躊躇してしまったような内容も質問しやすかつたのではないだろうかとも感じました。学生を含めて本当に多くの方々に参加していただき、私達の活動に 관심をもつて沢山の質問をしていただけたことはとても嬉しく思いました。

今後もそれぞれの施設の向上のためにも、このような交流の場に多く参加していくたらと思います。

## 在宅生活の支援

軽費老人ホーム「玉沢昭寿園」

生活相談員 延原 智子

このたびポスターセッションに参加させていただき、他施設の取り組み、工夫などを知ることができ勉強になりましたとのと同時に、良い情報交換の場となりました。

どの施設の問題点・今後の課題には、お年寄りの閉じこもり防止、認知症予防、残存機能を活かした生活があがつており、各施設でのレクリエーションの工夫、様々なクラブ活動、行事を通してADLの維持・向上、認知症の回避、居室への引きこもり予防への取り組みを知ることができました。私どもの施設は軽費老人ホームですが、近年、加齢に伴う要介護者の増加が著しく、自分の身の回りのことができる能力を保持されること、日常生活の中での自立がとても重要であるとともに、やはり認知症の進行を抑制することが今後の課題となつております。この機会に本格的に取り組むこととなりま

した。

今回、発表するに当たり取り上げたテーマが「在宅生活の支援」給食サービスと安否確認」。日中独居の高齢者世帯に栄養バランスのとれた昼食を届け、在宅の高齢者が食生活を通じて健康で自立した生活を送れるよう生活の質を確保するとともに、安否確認への取り組みをまとめました。その中で、食事の内容を栄養士側から一ヶ月の献立を例にあげ栄養所要量及び食品群別摂取量を参考資料として掲載しました。この点では、他施設の栄養士の方からも興味を持たれていたようでした。また、安否確認について利用者の健康状態に異常があった場合、関係機関への連絡の流れをまとめたことにより、参加者の皆様に給食サービスの重要性をお伝えすることができたのではないかと思います。

今回参加させていただいたことで何より他施設の取り組みを参考にでき、改善点・問題点が明確となつたことが大きく、今後に活かしていきたいと思います。また、発表のための準備で仕事の見直しと今後の課題を改めて認識することができました。

### 一通の年賀状からの取り組み

奥山老人ホーム「あかねセンター」

生活相談員 杉山 みづ子

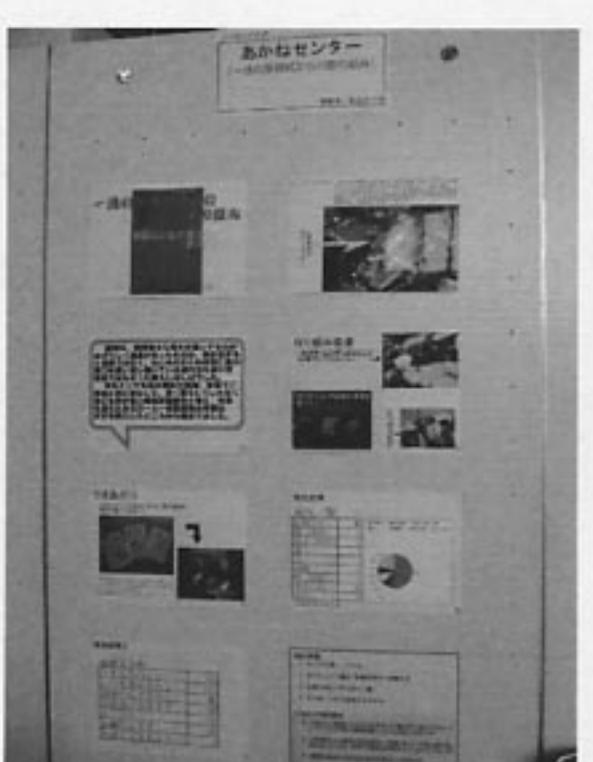


「ポスターセッションに参加してみないか。浜松市でも北西部にあるわが

置、個性あるポスターにする、

オールカラーの配色、プリント用紙選びなど楽しい?悩みでした。

発表当日は、予定の時間を落ち着いて、ゆっくり、大きな声でと自分に言い聞かせていました。の、大勢の見学者の前では緊張してしまい、つい早口となつてしましました。



終了後は、ホッと胸をなでおろすのも束の間、多くの方から質問をいただきました。

他のブースにも関心がありましたものの、初めての試みに、何をテーマにするかいろいろ悩みました。

実際に取り組んでいるありのままをタイトルにし、発表すればいい。

年をとっても住み慣れた地域、家庭でご家族と共に安心して、長く暮らしていただきたい。そんな思いから「一通の年賀状からの取り組み」が始まりました。言葉ではなかなか言えないことも、はがきの文面で思いを伝えることで気持ちが通じ合い、それが元日の朝届く年賀状ならなおさら、相手の気持ちも変わつてくるのではないかと望み託し取り組んできました。

### グループケアへの取り組み

「一空園デイサービスセンター」  
介護支援専門員 稲垣 いつ子

二月九日、静岡市民文化会館の広い展示会場は、特養I・特養II・軽費・デイサービスの四つのブースに仕切られ、スタッフの方々がタイトルシートをパネルに貼り付けて発表の準備をしていました。時間が経つにつれ、発表者たちが次々にポスターを持参し自分のパネルに貼り始めると、会場はそれ

までの雰囲気と違い、人が入ってくるにつれにぎわい始め、にわかに活気付きました。

ポスターは様々で特徴や個性を感じられ、特に様式を限定しなかったのが良かったと思います。手書きのものやパソコンを用いたもの、色彩感覚も多样で、センスのよさが感じられるものが多くありました。写真が掲載されているものはビジュアル的で、明確のために説得力がありました。

発表は、平成十五年度における介護レポートコンテストが始まりで、日々現場で築き上げたものをレポートとして発表し入賞したのがきっかけです。今回のポスターセッションという企画は初めてでしたので、図案の構成や発表の手順について大変困惑しました。当施設には拡大印刷設備があり、

そのソフトを扱える職員がいたので、拡大ポスターをパソコンで作製することができました。

与えられた発表時間については、自分にとつてちょうど良い配分でした。参加者が身近に感じられたため発表に熱が入り、施設で取り組んできた内容をいかに伝えることができるかと真剣になりました。また、聴いている方からの反応が直に伝わるため、緊張と興奮が適度に交わり楽しいものになりました。

大きな会場で、一人の発表者の対して多くの聴衆という方法とは違って、今回のように、発表者と参加者が一体となつて対面的に発表する方法は大変良いと思います。

今回は大変貴重な体験をさせていただきました。今後も継続して開催されることを期待します。

取り入れていかなければならぬことや見直す点、工夫する点などを知ることができます。

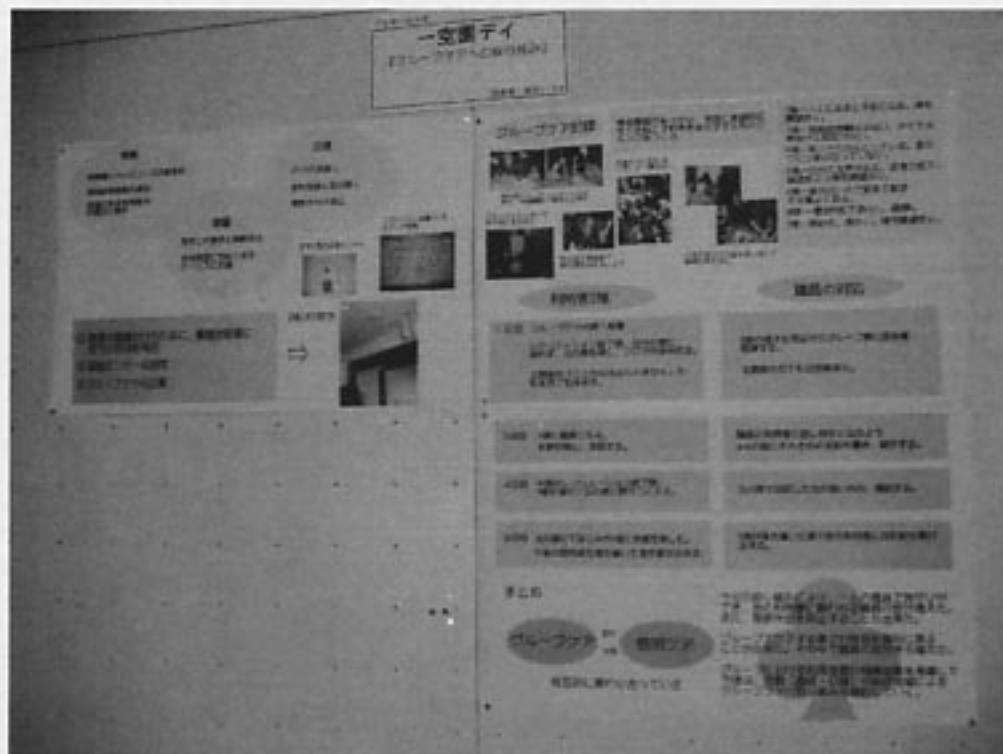
今回私たちが、このポスターセッションに参加し発表に至るまでには、片岡杉の子園の抱えている問題点を見詰め直すことから入りました。施設内における様々な問題の中で、今後、利用者様にとつてよりよい生活を送つていただけるためのユニット化と、それに伴う問題の改善を発表したいと思い、内容を決定しました。その中で工夫した点は、十分間という短い発表時間の中で聴いてくださっている方によりわかりやすく、且つ正確に伝えることであります。

そのため、私たちが主に伝えたいことを中心としてポスターを作成し、見るだけで内容がわかるようになるよ

う努力しました。  
また発表方法でも、聴く人にとって聞きやすい声量と、話す速度を守るよう努力しました。

今後につなげたいこととしては、やはり他の施設の抱えている問題点や改善点は、自分たちの施設にも共通することも数多くあつたため、このような場を活かして行きたいと思います。また、自分たちの施設をふだんは客観視できていないので、参加者からの質問事項などによって、今後見直されなければならない点などを見詰め直すためにも絶好の機会でありました。

最後に、このような交流研修会を今後も実施することによって、各施設のさらなる向上を図つていけたらよいと思います。



## ユニット化により見えてきた リスクへの取り組み

特別養護老人ホーム「片岡杉の子園」

介護士 村松 克則

このたびポスターセッションという研修会に参加させていただき、改めて他の施設の悩みや問題点などを知ることができました。

また、私たちと同じような問題点を抱えている施設も多くあり、その発表を聞くことによつて、今後私たちの

**参加施設募集**

募集期間 平成17年11月30日まで

**第1回 ポスターセッション**

「語ろう、拡げよう情報のネットワーク」

あなたの施設を紹介して下さい!!

期日 平成18年 2月 9日(木) 10:00~15:00  
会場 静岡市民文化会館・大会議室・A展示室

施設の持つ特色や取り組みをポスターでPR!  
気軽に情報交換できるのがポイントです。  
詳細は、募集要項をご覧下さい。

異業種講師講演会同時開催 3階大会議室 10:15~12:15  
「呼び起せ“日本人のチカラ”」

講師:武術家 甲野 善紀  
NHK「課外授業～よこそ先輩～」  
二十一世紀武芸帳、呼び起せ“日本人のチカラ”等...  
テレビ出演の他「甲野善紀の身体革命」「古(いにしえ)の武術」に学ぶ他著書も多数

主催 加申込先  
静岡県老人福祉施設協議会  
(21世紀委員会・企画調査研修委員会)

# 我が施設のユニーク行事

## “お座敷レク”

「お座敷レク? それって何?」とお思いの方も多いではないでしょうか。

お座敷レクとは、お座敷を用意し、そこでゆっくりと楽しいふれあいの時間を過ごしていたしたことなのです。



やり方はいたって簡単です。畳（簡易畳でOK）とテーブル（こたつ机があれば効果抜群）を用意すれば準備完了です。

職員が利用者に寄り添い、畳の上でテーブルを囲み、ミカンやお茶菓子を食べながら、昔話に花を咲かせることがお座敷レクなのです。

自由な発想で、取り組み方はどんどん広がります。（卓上で、たこ焼きを焼いてみるのもいいですよ。）是非お試しください。

（特別養護老人ホーム「やすらぎの里」）

### 特別養護老人ホーム 豊田ゆうあいの里

平成17年10月7日 開設  
磐田市下万能700  
入所定員 80名



# 新加入施設紹介

平成18年4月1日現在

### 養護老人ホーム 古宇養護老人ホーム ゆうほうのさと 遊法苑

平成15年12月1日 開設  
沼津市西浦古宇13-14  
入所定員 100名



## 施設名称の由来と想い

たおやかに 美しく

ケアハウス 紅紫萩

理事長兼施設長 松本 育

人生五十年がいつの間にか八十年、私もやがてその仲間入りになります。私は、かねてから折角の人生を「確かに目的をもつて過ごしたい。そのことが人様のお役に立つことであれば・・・」との思いから平成二年、軽費老人ホームを立ち上げ、経営の第一歩を踏み出しました。当時は、ケアハウス建設への指針さえ示されておらず、行政や各機関への陳情を重ね、「認可」までには、今日では到底考えられない厳しいものでした。

人生五十年がいつの間にか八十年、私もやがてその仲間入りになります。私は、かねてから折角の人生を「確かに目的をもつて過ごしたい。そのことが人様のお役に立つことであれば・・・」との思いから平成二年、軽費老人ホームを立ち上げ、経営の第一歩を踏み出しました。当時は、ケアハウス建設への指針さえ示されておらず、行政や各機関への陳情を重ね、「認可」までには、今日では到底考えられない厳しいものでした。

ついで、平成七年、職員の交流や経営上の観点から、第二期工事として、デイサービスセンター、訪問介護事業、在宅介護支援センターなどを設置する別館を建設しました。このことは、地域福祉の拠点として注目を浴び、大方の信頼もいただき大切な経営の安定にもつながり、大変喜ばしいことでした。

更に、平成十二年四月からの介護保険制度の発足に伴い、一方では入居者の高齢化、虚弱化に加え、幅広い地域の要請や民間事業者との競合も視野に入れ、第三期事業として特別養護老人ホーム「萩の花」の建設に着手し、今日、漸く、その目途もついてきました。

実は、特養・萩の花の建設の際、地主の意向に従い、建設用地の必要以上の余分な土地を買収せざるを得ない事情が生じました。この土地代金の返済と、より有効活用を摸索する中で、第4期事業として、老人保健施設（百床）の建設に踏み切り、お陰さまでこの施設も平成十八年四月に開設できる運びとなりました。

アハウス（軽費）、特別養護老人ホーム、老人保健施設とそれぞれ特色のある施設が整備でき得ますのも、高齢化社会に対応すべく時代の要請もさることながら、多くのご関係皆さまの適切なご指導、ご支援とお力添えの賜物と心から厚くお礼申し上げます。

引き続き高齢者の暮らしも実態を直視し、ご要望とご期待にお応えでありますように、各施設間の連携と介護の充実に努めてまいりたいと念願しております。

終わりに「紅紫萩」（こうしほぎ）の名称は、如何なる環境にも適応し、紅紫色に輝く萩の花のように、たおやかに強く生きようとの思いをこめて名づけたものです。

ケアハウスの単独経営という前例も何もない中で、経営面も容易ではありませんでしたが、開設以来幸いにして「満室」で推移することができました。

アハウス（軽費）、特別養護老人ホーム、老人保健施設とそれぞれ特色のある施設が整備でき得ますのも、高齢化社会に対応すべく時代の要請もさることながら、多くのご関係皆さまの適切なご指導、ご支援とお力添えの賜物と心から厚くお礼申し上げます。

【十八年四月一日～二十年三月三十日】  
新役員名簿  
会長 仲亀透（富士宮荘）  
副会長 木下朝子（玉沢昭寿園）  
理事 三重野隆志（小鹿苑）  
古田孝義（遠州の園）  
石原宏二（遊法苑）  
久保田裕明（長岡寮湯の家）  
石川三義（あしたかホーム）  
奥津匡俊（和みの郷）  
川島優幸（みくらの里）  
大塚芳正（すどの杜）  
都筑英樹（富士の里）  
大塚忠秋（ぎんもくせい）  
赤川好恵（慈恵園）  
秋山通（麻機園）  
松本琢也（大井川睦園）  
林典子（レジデンス花）  
有馬良建（サンライフルくじゅ）  
玉田直文（ラボーレ駿河）  
原田春彦（九重莊）  
峰野政博（奥山老人ホーム）  
水谷猛（浜名湖園）  
栗野裕治（一空園）  
種岡養一（西島寮）  
小澤優（グリーンヒルズ東山）  
青野容幸（おおすか苑）  
杉浦佳一（ケアハウス燐光）  
宮岸幸一（アドナイ館）  
鈴木清司（事務局）  
山中康義（静光園）  
渡邊睦（岩本園）  
監事 常務理事



アルファベットの「K」をイメージし、「伸びやかさ」「自然」「くつろぎ」「輝き」を表現する紅紫萩のマークです。

このように、計画年次ごとに、ケ

# 活動報告

に申し入れ書により呼びかけることになりました。

## 県老施協

★総会 十八年三月二十八日、もくせい会館において、十八年度事業計画並びに収支予算、任期満了に伴う役員選出について審議しました。

★総会 十八年五月十六日、静岡商工会議所会館において、十七年度事業報告並びに収支決算について審議しました。

★正副会長会議 十八年二月十四日、県総合社会福祉会館において、老施協とディ協の一元化について協議しました。

★監査会 十八年四月二十八日、県総合社会福祉会館において、十七年度事業並びに収支決算について監査を実施しました。

★正副会長会議 十八年四月二十八日、県総合社会福祉会館において、各委員会委員及び正副委員長の委嘱、十七年度事業報告並びに収支決算、五月定例総会等について協議しました。

★職員研修会 十八年三月四日、グランシップにおいて、上智大学大学院の柄本一三郎教授を講師に招き、介護保険制度改革緊急セミナーを開催しました。タイムリーなテーマだったため、土曜日にもかかわらず二百三十名の参加がありました。

★ボスター・セッション 二月九日、静岡市民文化会館において開催しました。初めての試みでしたが、特集に掲載のとおりの好評でした。参加者は二百八十三名でした。

★理事会 十八年三月三日、県総合社会福祉会館において、十八年度事業計画並びに収支予算、任期満了に伴う役員改選、老施協とディ協の一元化、三月定例総会等について協議しました。

## 特養部会

★総会 十八年五月十六日、静岡商工会議所会館において、十七年

日、もくせい会館において、定例総会の運営、各委員会委員の選出等について協議しました。

★理事会 十八年四月二十八日、県総合社会福祉会館において、各委員会委員及び正副委員長の委嘱、

十七年度事業報告並びに収支決算、五月定例総会等について協議しました。

★理事会 十八年四月二十八日、県総合社会福祉会館において、十八年度企画・研修計画について協議しました。

●命の大切さが失われつあります。どれほど生きたいと願っても叶わない命を、他人が奪うことは一生償うことのできない大罪です。お年寄りになつても、命の尊さは同じです。福祉の現場からも「命の尊さ」を訴え続けて行きたいものです。(孝)

●今回の制度改正は、施設運営に大変厳しいものとなりました。

それ故に、老施協の一層の団結が必要です。しづ老施協が今後も皆様の情報交換誌として有意義に活用されることを願います。(康)

度事業報告並びに収支決算、役員改選、十八年度事業計画並びに収支予算について審議しました。

●介護保険法改正に伴い、多くの事務的作業が増えました。それより何より、利用者には勿論、関係者にも分かりにくくなつたことが一番悪いと思います。(隆)

編 集 後 記